

幽霊の正体見たり枯れ尾花

多くの人は自分は正しく倫理的であると思っている。多少のウソはつくしちょっとの不正はするけれど、それらは枝葉のことに過ぎないとして、自らを人格者と自負している人が多い。

特に政治やマスコミ、教育や福祉に携わる人の中には、自分が高潔な人間であるとの立場から、他人に対して教訓をたれたり、他人を批判したりする人たちがいる。

しかし、倫理的であるためには、自然体では大いに不足で、文献や事例に学ばなければならないということを彼らは知らない。

第二次大戦中に医者が犯した生命軽視や人権侵害を反省して世界医学会がヘルシンキ宣言を公表しており、日本でも、生命科学技術の発展に伴って、人間を対象とした研究の倫理指針が策定されてきた。さらに、生命科学の進展に加えて、個人情報保護や一人ひとりの尊厳を尊重する意識の高揚に従って、ヘルシンキ宣言も日本の倫理指針も改訂されてきている。

だから、我々が倫理的であるためには、自分一人で姿勢を正すだけでは不足であり、審査機関とか委員会を設けて、これらの宣言や指針の変遷の経緯を勉強し、基本的な人権の侵害が疑われたときには審査をすることが必要である。

また、個人的には、自らの姿勢を正すためのチェックポイントももっていたらいいと思う。それは、教育や福祉の基本理念である、「相手の自立をはかること」、「礼節を重んじること」、「相手の尊厳を尊重すること」、などがその例となろう。

「相手の自尊心を尊重しながら援助ができたかどうか」、「相手に対して高圧的、家父長的な態度をとらなかったかどうか」、「相手の言葉を言い換えて相手の意図を歪曲しなかったかどうか」、「相手からの提言に誠実に答えただろうか、回答しないまま放置していないかどうか」、たくさん練習してようやく身につくことだ。

自分が倫理的で正しいと思っているけれど勉強しない人、あなたは幽霊です。周りの人はあなたが枯れ尾花であることを見抜いていますよ。自責の念も込めて。